

宝仏神体に関するもの

六光内の壇

《城之内》

梓衝城之内東の畑の中に、一つの壇があった。昔、ここは六光寺と称する寺院があつて、その廃滅の時、境内に金製の鶏を埋めて、壇を築いたといわれる。

後世、これを発掘する者は病を患うと称して、掘る者がなかつたという。一説には、寺でなく六光内長者が住んでいて、全盛の時、金鶏を埋めたともいわれる。今は開田工事のため、その跡形もない。

(「岩瀬郡誌」より)

八幡太郎義家と軍用金

《滝》

後冷泉天皇の御代に、八幡太郎義家、滝字高屋敷に本陣をかまえ、八幡寺を建てて、八幡大菩薩を祀り、戦没兵士の英霊を祀った。

当時、千人位の家来で、安倍貞任、宗任と戦つて勝つことができなかつたので、兵が集まるまで八幡岳にこもつた。その時の昇り口が「きのこ沢」であつた。きのこ沢には八幡太郎義家の馬の足跡といわれ